

北海道観光入込客数調査報告書

平成30年度（2018年度）

令和元年（2019年）8月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

全道10カ所の観光地点における聞き取り調査をもとに、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に算出した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

9月に発生した胆振東部地震の影響等により第2四半期は前年度比4.8%の減少となったものの、国や道・市町村・観光振興機構などの関係者による取組の効果などにより、平成30年度の観光入込客数は全体で5,520万人（前年比▲1.6%）と微減にとどまり、道外客及び外国人客は前年度比で増となりました。

2 道内容・道外客・外国人別

道内容は4,601万人（前年度比124万人減、▲2.6%）、道外客は607万人（同1万人増、+0.2%）、外国人が312万人（同32万人増、+11.6%）となりました。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客は3,648万人（前年度比79万人減、▲2.1%）、宿泊客は1,872万人（同11万人減、▲0.6%）となりました。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,551万人（前年度比9万人増、+0.6%）、第2四半期が2,016万人（同102万人減、▲4.8%）、第3四半期が898万人（同3万人減、▲0.3%）、第4四半期が1,055万人（同6万人増、+0.6%）となりました。

<平成30年度(2018年度) 観光入込客数(実人数)>

区分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比	
第1四半期 (4~6月)	道内容	1,102万人	243万人	1,345万人	▲0.3%	86.7%
	道外客	2万人	142万人	144万人	+1.4%	9.3%
	外国人	—	62万人	62万人	+22.8%	4.0%
	合計	1,104万人	447万人	1,551万人	+0.6%	100.0%
第2四半期 (7~9月)	道内容	1,495万人	252万人	1,747万人	▲4.8%	86.7%
	道外客	9万人	186万人	195万人	▲8.5%	9.7%
	外国人	—	74万人	74万人	+5.3%	3.7%
	合計	1,504万人	512万人	2,016万人	▲4.8%	100.0%
第3四半期 (10~12月)	道内容	452万人	244万人	696万人	▲1.7%	77.5%
	道外客	5万人	130万人	135万人	+3.8%	15.0%
	外国人	—	67万人	67万人	+5.7%	7.5%
	合計	457万人	441万人	898万人	▲0.3%	100.0%
第4四半期 (1~3月)	道内容	580万人	233万人	813万人	▲2.4%	77.1%
	道外客	3万人	130万人	133万人	+10.8%	12.6%
	外国人	—	109万人	109万人	+14.1%	10.3%
	合計	583万人	472万人	1,055万人	+0.6%	100.0%
合計	道内容	3,629万人	972万人	4,601万人	▲2.6%	83.4%
	道外客	19万人	588万人	607万人	+0.2%	11.0%
	外国人	—	312万人	312万人	+11.6%	5.6%
	合計	3,648万人	1,872万人	5,520万人	▲1.6%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

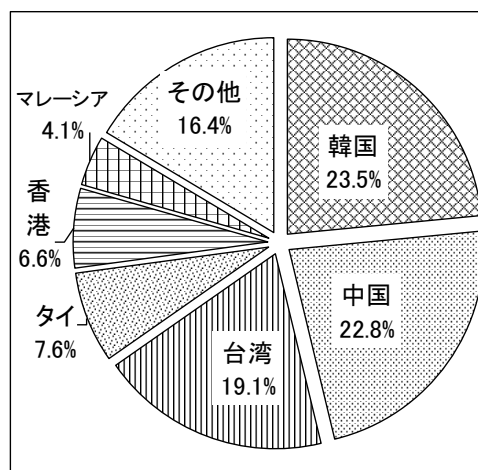
平成30年度の訪日外国人来道者数は、胆振東部地震の影響はあったものの、中国や韓国などアジア圏の北海道人気が続いたほか、国際線の新規就航や増便も追い風となり、312万人と前年度に比べて11.6%増加し、過去最高を更新しました。

これは日本全体の平成30年度訪日外国人旅行者数3,163万人の9.8%となっています。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は268万7,200人で、前年度に比べて8.5%の増加となりました。

国・地域別で見ると、韓国が73万1,200人（前年度比+14.4%）と最も多く、次いで、中国が70万8,900人（同+6.4%）、台湾が59万4,200人（同▲3.4%）、タイが23万5,200人（同+47.6%）、香港が20万5,000人（同+0.9%）、マレーシアが12万8,900人（同+4.0%）となっており、特に韓国は前年度に続いて伸び、中国を抜いて1位となりました。



来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。

中国	新鮮な食べ物や夏季の花観光や冬季の雪景色などを楽しめる北海道は定番の旅行先となっており、地震の影響はあったものの、前年度比6.4%増となりました。
韓国	地震の影響はあったものの、北海道人気の高まりが続いたことなどにより、前年度比14.4%増と順調に推移し、統計を開始した平成9年度（1997年度）以降、初の国・地域別の1位となりました。
台湾	雪や広大な花畑などに対して根強い人気があるものの、地震の影響などにより、前年度比3.4%の減少となりました。
香港	香港では訪日旅行者が好調に増加しており、地震発生後は来道者が減少しましたが、1月以降は増加に転じ、通年では前年からほぼ横ばいとなりました。
タイ	タイは経済発展や格安航空会社の就航などにより、旅行者が増加しており、4月にタイ・エアアジアXがバンコクー新千歳便を就航させたことなども追い風となり、前年度比47.6%増と大きく伸びました。
マレーシア	北海道は花観光だけでなく、スキーや流氷体験といったアクティビティーを通年楽しめる旅行地として高い人気があり、クアラルンプールー成田便の機材変更などの効果もあり、前年度比4.0%と増加しました。

<平成30年度(2018年度)訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		韓国	中国	台湾	タイ	香港	マレーシア	シンガポール	小計
第1四半期 (4~6月)	30年度	172,500	144,200	122,000	48,400	39,400	31,700	12,800	571,000
	29年度	131,000	107,200	108,500	26,300	40,200	30,100	14,000	457,300
	前年同期比	+31.7%	+34.5%	+12.4%	+84.0%	▲2.0%	+5.3%	▲8.6%	+24.9%
第2四半期 (7~9月)	30年度	200,400	127,400	167,700	61,800	53,300	36,200	23,100	669,900
	29年度	189,800	122,100	175,600	37,800	56,700	35,100	21,600	638,700
	前年同期比	+5.6%	+4.3%	▲4.5%	+63.5%	▲6.0%	+3.1%	+6.9%	+4.9%
第3四半期 (10~12月)	30年度	132,300	136,800	144,100	52,500	57,300	35,200	29,200	587,400
	29年度	146,200	125,600	160,600	20,600	61,800	26,600	25,300	566,700
	前年同期比	▲9.5%	+8.9%	▲10.3%	+154.9%	▲7.3%	+32.3%	+15.4%	+3.7%
第4四半期 (1~3月)	30年度	226,000	300,500	160,400	72,500	55,000	25,800	18,700	858,900
	29年度	172,400	311,100	170,100	74,700	44,500	32,200	8,400	813,400
	前年同期比	+31.1%	▲3.4%	▲5.7%	▲2.9%	+23.6%	▲19.9%	+122.6%	+5.6%
合 計	30年度	731,200	708,900	594,200	235,200	205,000	128,900	83,800	2,687,200
	29年度	639,400	666,000	614,800	159,400	203,200	124,000	69,300	2,476,100
	前年同期比	+14.4%	+6.4%	▲3.4%	+47.6%	+0.9%	+4.0%	+20.9%	+8.5%

区 分		米国	オーストラリア	カナダ	ロシア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	30年度	9,600	7,600	3,000	3,700	25,900	620,800
	29年度	8,800	8,000	3,000	3,300	25,000	505,400
	前年同期比	+9.1%	▲5.0%	±0.0%	+12.1%	+3.6%	+22.8%
第2四半期 (7~9月)	30年度	17,400	7,400	6,200	4,100	30,100	735,100
	29年度	16,700	7,100	6,300	4,100	25,400	698,300
	前年同期比	+4.2%	+4.2%	▲1.6%	±0.0%	+18.5%	+5.3%
第3四半期 (10~12月)	30年度	18,100	8,400	5,500	3,100	46,500	669,000
	29年度	10,000	6,800	5,300	3,000	41,100	632,900
	前年同期比	+81.0%	+23.5%	+3.8%	+3.3%	+13.1%	+5.7%
第4四半期 (1~3月)	30年度	58,300	45,000	6,000	7,000	114,900	1,090,100
	29年度	41,600	32,600	7,800	3,700	56,400	955,500
	前年同期比	+40.1%	+38.0%	▲23.1%	+89.2%	+103.7%	+14.1%
合 計	30年度	103,400	68,400	20,700	17,900	217,400	3,115,000
	29年度	77,100	54,500	22,400	14,100	147,900	2,792,100
	前年同期比	+34.1%	+25.5%	▲7.6%	+27.0%	+47.0%	+11.6%

※参考 インドネシア、フィリピン、イギリスについて、参考値として試算したところ、「その他」217,400人のうち、インドネシアが24,200人、フィリピンが21,300人、イギリスが34,300人となっております。

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

市町村における観光入込客数を合計した総数(延べ人数)は、1億4,588万人で、前年度に比べて0.1%の増加となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,781万人泊で、前年度に比べて1.5%の増加となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数(延べ人数)を見ると、4圏域では前年度に比べて微減となりましたが、道南圏は1,320万人(前年度比+3.6%)、道央圏では8,083万人(同+0.3%)の入込があり、前年度を上回りました。

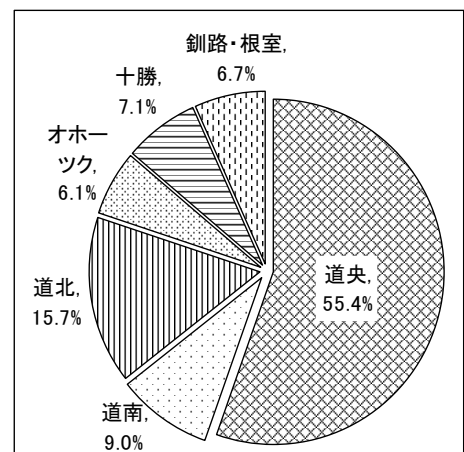
宿泊客延べ数では、釧路・根室圏域は前年度と同程度で、オホーツク圏が減少しましたが、他の5圏域は前年度に比べ増加しました。

なお、各圏域の観光入込客数の特徴は次のとおりです。

道央圏	地震などの影響もありましたが、「道の駅石狩あいりーど厚田」や円山動物園の「ホッキョクグマ館」など集客力のある観光施設の開業・改装などの効果により、前年比微増となりました。
道南圏	地震や天候不順の影響により、一部イベントが中止になったものの、「なないろ・ななえ」や「上ノ国もんじゅ」など道の駅に多くの利用客があったほか、冬期のスキー客が好調だったことなどにより増加しました。
道北圏	「青い池」の周辺環境整備や道の駅「びえい白金ビルケ」の新規開業などにより集客を伸ばしましたが、地震や天候不順の影響により「最北端・食マルシェ」(稚内市)などのイベントが中止になったこともあり減少しました。
オホーツク圏	芝桜やチューリップなど花観光が定着したほか、道の駅「ノンキランドひがしもこと」(大空町)の集客が順調に推移したものの、阿寒摩周国立公園の一部である「神の子池」への交通規制、地震や天候不順の影響により減少しました。
十勝圏	「国際農業機械展」等のイベントの開催や冬期の「しかりべつ湖コタン」に多くの利用客があったものの、地震や天候不順、雪不足によるスキー場の営業開始の遅れなどにより減少しました。
釧路・根室圏	圏域各地のバードウォッチングの人气が高かったことや、8月のピーチアビエーションの釧路ー関西線の新規就航による追い風はありましたが、地震や天候不順の影響などによるイベント中止などから減少しました。

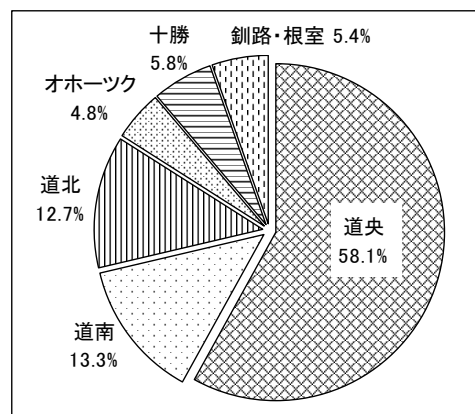
<圏域別観光入込客数(延べ人数)>

圏域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道央	8,083万人	+0.3%	+23万人	55.4%
道南	1,320万人	+3.6%	+45万人	9.0%
道北	2,286万人	▲0.3%	▲7万人	15.7%
オホーツク	885万人	▲2.3%	▲21万人	6.1%
十勝	1,033万人	▲0.9%	▲9万人	7.1%
釧路・根室	982万人	▲1.8%	▲18万人	6.7%
合計	14,588万人	+0.1%	+12万人	100.0%



〈圏域別宿泊客延べ数〉

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	2,196万人泊	+2.1%	+46万人泊	58.1%
道南	501万人泊	+1.5%	+7万人泊	13.3%
道北	480万人泊	+1.1%	+5万人泊	12.7%
オホーツク	181万人泊	▲4.1%	▲8万人泊	4.8%
十勝	219万人泊	+4.8%	+10万人泊	5.8%
釧路・根室	205万人泊	▲1.6%	▲3万人泊	5.4%
全道	3,781万人泊	+1.5%	+58万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数を市町村別で見ると、札幌市が1,585万人（前年度比+3.8%）で最も多く、次いで、小樽市781万人（同▲3.1%）、釧路市530万人（同+1.2%）、以下旭川市、函館市、千歳市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が1,373万人泊（前年度比+5.0%）で最も多く、次いで、函館市441万人泊（同+1.7%）、釧路市153万人泊（同▲0.3%）、以下、倶知安町、帯広市、登別市の順となっています。

〈観光入込客数(実人数)の多い市町村〉

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,585万人	+3.8%
2	小樽市	781万人	▲3.1%
3	釧路市	530万人	+1.2%
4	旭川市	527万人	▲1.6%
5	函館市	526万人	+0.3%
6	千歳市	498万人	▲5.0%
7	登別市	378万人	▲6.6%
8	帯広市	293万人	+8.2%
9	洞爺湖町	259万人	▲11.6%
10	石狩市	254万人	+23.9%
11	喜茂別町	245万人	▲5.3%
12	七飯町	233万人	+26.8%
13	美瑛町	226万人	+34.7%
14	壮瞥町	201万人	▲8.2%
15	苫小牧市	200万人	+0.0%
16	富良野市	192万人	+1.3%
17	伊達市	173万人	▲4.6%
18	上川町	171万人	▲7.9%
19	占冠村	170万人	▲3.0%
20	二セコ町	167万人	▲0.3%

〈宿泊客延べ数の多い市町村〉

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,373万人泊	+5.0%
2	函館市	441万人泊	+1.7%
3	釧路市	153万人泊	▲0.3%
4	倶知安町	128万人泊	+0.2%
5	帯広市	127万人泊	+11.4%
6	登別市	125万人泊	▲5.0%
7	旭川市	108万人泊	+15.8%
8	小樽市	95万人泊	+7.1%
9	洞爺湖町	72万人泊	▲1.4%
10	北見市	70万人泊	▲3.3%
11	富良野市	67万人泊	▲2.5%
12	占冠村	66万人泊	+7.3%
13	上川町	60万人泊	▲8.5%
14	二セコ町	51万人泊	▲19.2%
15	網走市	44万人泊	▲7.9%
16	音更町	44万人泊	▲0.2%
17	斜里町	44万人泊	▲4.6%
18	留寿都村	38万人泊	▲1.5%
19	稚内市	37万人泊	▲2.6%
20	室蘭市	36万人泊	▲0.7%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成30年度（2018年度）の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、844万4千人泊で、前年度に比べて11.5%の増加となりました。

国・地域別に見ると、中国が204万6千人泊で全体の24.2%を占め最も多く、次いで、台湾が175万人泊で20.7%、韓国が136万2千人泊で16.1%、香港が76万人泊で9.0%、タイが57万人泊で6.7%、以下、シンガポール、マレーシアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が611万3千人泊と全道の72.4%と最も多く、次いで道北圏、道南圏、釧路・根室圏、十勝圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、道南圏が29.9%増と最も伸びており、全道では11.5%の増加となりました。

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア										
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム
道央	1,474,372	1,195,150	1,025,151	541,697	275,755	226,995	410,160	6,808	86,406	59,815	10,601
道南	184,999	33,075	322,080	33,713	35,309	29,318	65,738	2,134	14,911	3,287	1,723
道北	284,626	97,607	237,152	116,864	65,833	26,904	83,251	810	9,110	2,682	1,068
オホーツク	23,868	7,619	28,622	25,898	11,856	4,835	4,274	72	865	761	456
十勝	28,046	19,049	62,694	23,991	14,273	4,846	3,837	168	900	376	74
釧路・根室	50,103	9,307	73,967	17,901	12,063	5,795	2,565	141	868	318	310
全道	2,046,014	1,361,807	1,749,666	760,064	415,089	298,693	569,825	10,133	113,060	67,239	14,232
前年度比	+15.9%	+12.9%	▲2.8%	▲3.4%	+9.0%	+11.8%	+53.3%	+69.3%	+35.8%	+50.8%	+58.2%
構成比	24.2%	16.1%	20.7%	9.0%	4.9%	3.5%	6.7%	0.1%	1.3%	0.8%	0.2%

圏域	ヨーロッパ				北 米		オーストラリア	その他	計	29年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	18,889	31,942	13,221	11,696	173,146	25,552	213,167	312,183	6,112,705	5,508,029	+11.0%
道南	2,295	3,569	2,854	2,413	16,440	4,153	9,465	16,202	783,678	603,471	+29.9%
道北	1,487	4,046	3,893	1,876	15,988	2,834	46,252	32,706	1,034,989	956,804	+8.2%
オホーツク	316	681	1,118	951	3,318	532	1,684	10,266	127,992	130,331	▲1.8%
十勝	1,110	683	636	406	4,852	973	12,115	6,688	185,717	179,045	+3.7%
釧路・根室	1,189	2,388	1,783	844	4,377	551	2,187	12,032	198,689	194,309	+2.3%
全道	25,286	43,309	23,505	18,186	218,121	34,595	284,870	390,077	8,443,770	7,571,989	+11.5%
前年度比	+21.2%	+22.9%	+38.6%	+34.9%	+39.2%	+36.1%	+21.0%	+12.2%	+11.5%		
構成比	0.3%	0.5%	0.3%	0.2%	2.6%	0.4%	3.4%	4.6%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が360万5千人泊（前年度比+16.6%）で最も多く、次いで函館市が69万1千人泊（同+34.2%）、登別市48万6千人泊（同▲6.4%）、倶知安町46万5千人泊（同+7.2%）、洞爺湖町32万9千人泊（同▲4.0%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	中国	2,046,014人泊	+15.9%
2	台湾	1,749,666人泊	▲2.8%
3	韓国	1,361,807人泊	+12.9%
4	香港	760,064人泊	▲3.4%
5	タイ	569,825人泊	+53.3%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	3,605,335人泊	+16.6%
2	函館市	690,568人泊	+34.2%
3	登別市	485,892人泊	▲6.4%
4	倶知安町	464,969人泊	+7.2%
5	洞爺湖町	328,829人泊	▲4.0%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	896,522人泊	+17.1%
2	函館市	159,504人泊	+85.3%
3	占冠村	138,151人泊	+28.3%
4	登別市	132,545人泊	+26.9%
5	洞爺湖町	92,755人泊	▲5.1%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	825,427人泊	+22.9%
2	登別市	111,739人泊	▲18.6%
3	小樽市	66,405人泊	+26.0%
4	洞爺湖町	42,329人泊	▲25.1%
5	上川町	36,575人泊	+53.8%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	593,958人泊	▲2.0%
2	函館市	279,819人泊	▲0.2%
3	登別市	130,287人泊	▲20.7%
4	洞爺湖町	100,666人泊	▲9.6%
5	上川町	100,083人泊	▲5.0%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	280,918人泊	▲5.4%
2	倶知安町	78,040人泊	▲4.9%
3	小樽市	40,991人泊	+3.1%
4	登別市	37,107人泊	▲7.6%
5	占冠村	36,391人泊	+17.9%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	139,607人泊	+15.3%
2	倶知安町	50,873人泊	+2.3%
3	函館市	32,001人泊	+80.9%
4	占冠村	20,913人泊	+8.1%
5	小樽市	16,700人泊	+14.2%

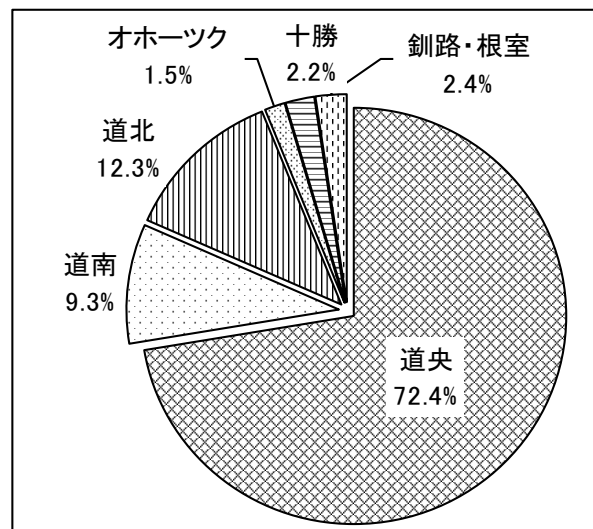
【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	277,080人泊	+62.5%
2	函館市	62,049人泊	+90.1%
3	旭川市	50,407人泊	+98.0%
4	千歳市	24,677人泊	+105.7%
5	小樽市	23,361人泊	+55.5%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	116,164人泊	+20.3%
2	札幌市	44,361人泊	+39.9%
3	占冠村	28,229人泊	+36.1%
4	ニセコ町	25,467人泊	▲3.2%
5	富良野市	12,700人泊	▲5.7%

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉



Ⅲ 観光消費額単価

道内10の観光地点において実施した聞き取り調査により算出した観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成30年度(2018年度) 観光消費額単価＞

(単位:円)

区 分		日 帰 り	宿 泊	
第1 四半期 (4~6月)	道 内 客	観光	4,591 (4,393)	23,976 (23,485)
		ビジネス兼観光	6,308 (5,085)	21,569 (16,820)
	道 外 客	観光	13,132 (12,614)	80,104 (79,129)
		ビジネス兼観光	7,414 (5,625)	27,303 (29,767)
	外 国 人	観光	8,726 (9,208)	127,735 (131,135)
		ビジネス兼観光	10,635 (8,877)	204,698 (71,501)
第2 四半期 (7~9月)	道 内 客	観光	4,109 (4,061)	27,204 (26,713)
		ビジネス兼観光	6,892 (4,051)	22,984 (15,548)
	道 外 客	観光	24,950 (25,495)	87,133 (87,852)
		ビジネス兼観光	8,009 (5,578)	28,227 (26,782)
	外 国 人	観光	7,774 (8,552)	140,017 (143,042)
		ビジネス兼観光	10,420 (8,695)	139,342 (76,317)
第3 四半期 (10~12月)	道 内 客	観光	6,275 (4,313)	28,999 (24,118)
		ビジネス兼観光	8,154 (4,158)	23,334 (15,497)
	道 外 客	観光	14,833 (22,136)	78,513 (73,631)
		ビジネス兼観光	6,954 (6,004)	27,328 (27,122)
	外 国 人	観光	8,935 (8,868)	170,223 (131,428)
		ビジネス兼観光	9,223 (8,407)	91,674 (76,513)
第4 四半期 (1~3月)	道 内 客	観光	3,998 (3,660)	29,112 (24,070)
		ビジネス兼観光	5,723 (6,187)	18,781 (17,806)
	道 外 客	観光	36,102 (24,430)	65,864 (77,083)
		ビジネス兼観光	6,096 (8,089)	95,759 (26,418)
	外 国 人	観光	8,013 (9,964)	206,532 (134,705)
		ビジネス兼観光	7,422 (5,427)	161,519 (125,343)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

道内客、道外客、外国人客の「ビジネス兼観光」及び外国人の日帰りの単価は、観光庁から提供された値を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成30年度 (2018年度)]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

令和元年 (2019年) 8月

北海道経済部観光局観光政策グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号 (代表) 011-231-4111 内線 26-564

(直通) 011-206-6596

FAX番号 (直通) 011-232-4120
